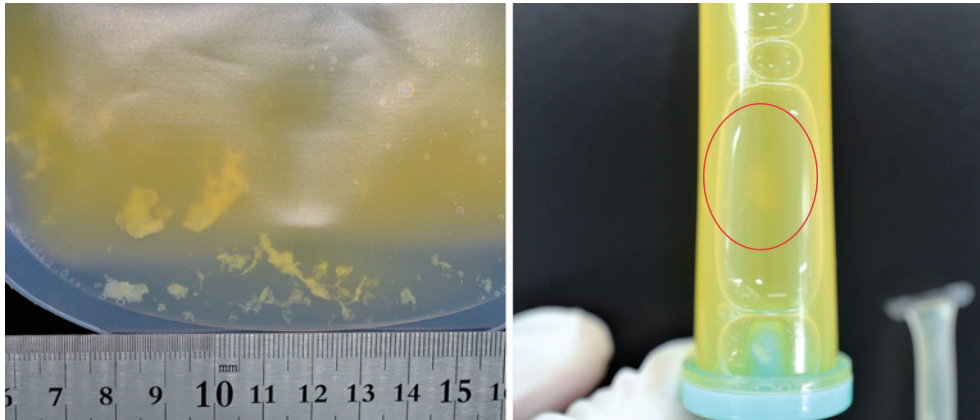


## 中心静脈カテーテルから輸血中に、逆流のため薬物が混入して生じた血小板製剤の凝集塊



伊達 英子<sup>1)</sup> 見山 晋一<sup>1)</sup> 岡村さやか<sup>1)</sup> 粟木原修治<sup>2)</sup> 佐伯 昌与<sup>2)</sup>  
矢舗 久美<sup>2)</sup>

1) 松江赤十字病院検査部

2) 日本赤十字社中四国ブロック血液センター

キーワード：血小板製剤，凝集塊，外観確認

45歳，男性．感染性心内膜炎の加療中に中心静脈カテーテル側管から血小板製剤10単位を薬剤と同時に投与した．輸血開始5分後，15分後の観察では異常を認めなかった．2時間経過した時点でバッグ内の残量が多く点滴筒が充満していることに気が付き観察したところ，バッグ内に凝集塊を認め輸血を中止した．患者に副作用は見られなかった．外観確認は血液センター出庫時には行われていたが，院内では確認していなかった．その後の調査で当該製剤はpH7.09，スワーリング有，無菌試験は陰性であったが，プラスミン分解試験で凝集塊に形状の変化を認め，フィブリンを含む浮遊物であると推察された．これらの結果及び状況から薬剤が血小板のラインに逆流し，凝集塊を生じたと考えられた．薬剤の混注は血液製剤の変性を起こすため，輸血は単独投与が原則である．やむを得ず点滴側管か

ら輸血する場合は生理食塩水でラインをフラッシュし，患者から最も近い三方活栓等を使用する<sup>1)2)</sup>．また側管から穿刺部の間に輸液フィルターがないことを確認する<sup>3)</sup>．以上を院内に注意喚起するとともに，納品時・出庫時及び輸血開始前の外観確認の実施記録を輸血実施手順に加えた．

著者のCOI開示：本論文発表内容に関連して特に申告なし

### 文 献

- 1) 日本輸血・細胞治療学会ホームページ：輸血のQ&A [http://yuketsujstmct.or.jp/transfusion\\_of\\_ga2/](http://yuketsujstmct.or.jp/transfusion_of_ga2/) (2017年5月現在)．
- 2) 日本赤十字社血液事業本部医薬情報課：輸血用血液製剤と薬剤の混注は避けてください．輸血情報 9609-29, 1996.
- 3) 藤田 浩：最新・輸血のケアQ&A，照林社，2008, 129.

## **AGGREGATES DEVELOPED IN PLATELET CONCENTRATE MIXTURE WITH DRUGS DURING TRANSFUSION THROUGH CENTRAL VENOUS CATHETER**

*Eiko Date<sup>1)</sup>, Shinichi Miyama<sup>1)</sup>, Sayaka Okamura<sup>1)</sup>, Shuji Awakihara<sup>2)</sup>, Masayo Saiki<sup>2)</sup> and Kumi Yashiki<sup>2)</sup>*

<sup>1)</sup>Department of Clinical Laboratory, Matsue Red Cross Hospital

<sup>2)</sup>Japanese Red Cross Chushikoku Block Blood Center

**Keywords:**

Platelet concentrate, Aggregate, Appearance check

---

©2017 The Japan Society of Transfusion Medicine and Cell Therapy

Journal Web Site: <http://yuketsu.jstmct.or.jp/>